

6. 北陸（地域別調査機関：一般財団法人北陸経済研究所）

（－：回答が存在しない、○：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計動向 関連 (北陸)	良く なっている	住宅販売会社 (従業員)	販売量の動き	・受注状況は毎月堅調に推移し、前年同月比で平均して3割増の大幅な伸びで推移している。
	やや良く なっている	一般小売店〔精肉〕 (店長)	単価の動き	・高額な商品が良く売れている。
		一般小売店〔鮮魚〕 (従業員)	お客様の様子	・料理飲食店で、やや客の入りが良くなってきたとの声をしばしば聞くようになった。また、あまりお金は落とさないが円安などにより、外国人観光客が目に見えて増えてきており、震災前を上回っているように思われる。
		百貨店(売場主任)	単価の動き	・気温の上昇とともに、春物、初夏物の定価品が活発になってきている。一時の単価だけにこだわりを持つ客から、ライフスタイル重視に変わりつつある。
		百貨店(営業担当)	単価の動き	・例年より寒かったため、婦人服の動きが悪かった。高級バッグの売上が前年同月の150%の伸びで、フロアの予算は達成することができた。
		百貨店(一般顧客訪問担当)	単価の動き	・高額品の動きが良くなっている。
		スーパー(店長)	お客様の様子	・競合店の状況を確認すると、自店の売上が増加してきていると実感した。
		スーパー(店舗管理)	来客数の動き	・リーマンショック以降、ようやく既存店ベースでの下げ止まり基調がみえてきたように思える。
		コンビニ(店舗管理)	来客数の動き	・今年に入り来客数の前年同月比が、月を追うごとに良い数値となっている。天候要因が大きな原因というだけではなさそうである。
		家電量販店(店長)	お客様の様子	・高付加価値商品を買いたい求める来客数が増えてきている。
		乗用車販売店(経理担当)	販売量の動き	・4月の車の販売台数は前年同月比102%、一方、今年1月の車の販売台数は同79%であるため、回復基調にある。
		その他専門店〔ガソリンスタンド〕 (経営者)	お客様の様子	・全体に様子をみていると、安い物ばかり買っていたのが、少し高い物も客が買うようになった。
		その他小売〔ショッピングセンター〕 (統括)	来客数の動き	・前年12月以降、4か月連続で来客数が前年同月比を上回っている。客単価の上昇にはまだつながっていないが、結果として集客の増加が売上を増加させている。
		観光型旅館(スタッフ)	来客数の動き	・総売上は前年同月比99%、宿泊人数は同97%、宿泊単価は同102%となった。個人客の割合は56%であり、企画募集の客が前年並みを確保でき、宿泊単価がアップとなった。
		都市型ホテル(スタッフ)	販売量の動き	・レストランや宴会部門はやや苦戦し、全体としては微減であるものの、宿泊部門はインバウンドの好調により順調に推移している。
		都市型ホテル(スタッフ)	来客数の動き	・宿泊客数が増えている。レストランの来客数も持ち直している。
		旅行代理店(従業員)	単価の動き	・個人客は相変わらず価格にはシビアであるが、団体客については多少価格帯が上の商品も受入れるようになってきている。
		タクシー運転手	来客数の動き	・週末を中心とした桜の花見や、会社においても新入社員、人事異動や歓迎会などが多かったため、良かった。
		通信会社(職員)	お客様の様子	・解約やキャンセルなどの事案が減少しつつある。
		その他レジャー施設(職員)	お客様の様子	・大人では入会と退会がほぼ同数であったが、子供カルチャー系の入会が出てきている。
	住宅販売会社(従業員)	お客様の様子	・前年は分譲住宅の売出しを行っても、来場者数は1日2～3組あれば良かったが、今月は2日で10組を越える来場者があったこともある。消費税率引上げ前に決めようと動く人が顕在化し確実に増えてきた。	
	住宅販売会社(従業員)	来客数の動き	・土地売買の件数も増加している。3月ごろからは問い合わせも増えている。	
	住宅販売会社(従業員)	お客様の様子	・今年の9月末日までの住宅工事請負契約であれば消費税率が5%ということであり、客に動きが出ている。	
	変わらない	商店街(代表者)	お客様の様子	・不安定な気候もあるのか、春物への購買意欲はまだ低い。

商店街（代表者）	お客様の様子	・天気の良い日はそれなりの人出が戻ってきたが、天気の悪い日は閑散とした雰囲気が流れている。足元の悪いなか、無理してまでも買物をしようという雰囲気ではまだないようだ。
一般小売店〔事務用品〕（役員）	販売量の動き	・4月は何とか目標の金額や売上額は達成したため、前年同月と同様、年度末の需要があったと思われる。しかし、内容をみると利益などは無く、厳しい状況が続いている。
一般小売店〔書籍〕（従業員）	来客数の動き	・数か月前の上り調子から横ばいになってきている。
百貨店（営業担当）	お客様の様子	・特徴的なのは、従来あまり動きのなかった10万円前後の寝具関係の機能性のマットレスといった物の動きが非常にいいが、客の様子をみると、まだ価格から入る買い方が大半であるという気がしている。
百貨店（営業担当）	販売量の動き	・春物の動き、婦人服であればパンツ、コート、スーツなどの動きは、前年同月比で100%を超えているのだが、全館的にみると前年同月の6割程度である。客の動向をみても、買い控えをしている客がまだみられる。何か欲しいが、何を買ってよいか分からない客がいる。インナーコーナーでもゴールデンウィーク前は旅行用の衣料が動くが、これも前年同月比7割程度である。
スーパー（店長）	お客様の様子	・前月と比べると、今月の消費は買上の点数や単価があまり好転していないのが実情である。実質的には収入が増えなければ、最終的に買物の際に今までとはあまり変わらず、食品への購買も変化はあまり無いように思う。
スーパー（総務担当）	来客数の動き	・4月の気温が低く天候も不安定であったため、衣料品では半袖商品の売行きが悪い。また、ホームセンター部門では園芸関係の商品の動きが遅れている。
スーパー（総務担当）	販売量の動き	・天候不順により、竹の子が不作であったが、それ以外は平年並みである。ただし、酒や菓子といったし好品は、買上率及び点数ともに前年同月割れが続いており、生活必需品は特に顕著である。なお、前月同様に、売上や販売量は前年同月並みで推移している。
コンビニ（経営者）	販売量の動き	・新しいカテゴリーとして店での引当工事などが始まったが、それにより来客数の微増はあるものの、客単価の下落が止まっていない。トータルすると、変わらないというのが現状である。
コンビニ（経営者）	販売量の動き	・例年より気温の変化が激しく特に突然の冷え込みが多かったことにより、多少飲料の売上が伸び悩み、予想ほど売上が良くはならなかったという感じである。
コンビニ（店長）	販売量の動き	・天候による変化は顕著にみられる。雨だと売上、来客数ともに減少し、晴れると増加する。ただ世間で言われているような景気の回復は全く実感できない。最近天候の良い日が少なく、月間売上が前年同月割れになっている。前年同月は雨でもそれほど来客数が悪くならなかったように感じるため、むしろ下向いていると思えるくらいである。ただ、快晴時の一日の売上高は前年同月を上回っているため、天候次第だと考えたい。
衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・一部の客の購買意欲は若干上がってきているように感じられるが、全体的にはまだまだ慎重である。
衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・客からは給料が上がっているなどの話を聞くことなどは無く、言われているような景気の良い話はまだ聞かえてこない。
衣料品専門店（経営者）	来客数の動き	・株高、円安で景気が上向いているという実感はまだ無い。4月上旬にイベントを行ったが、期待したほど来客数は増えず、さらに、終わった後も目立った動きは無い。ゴールデンウィークはまだ始まったばかりであるが、前年同月の実績を維持できれば、良いと考えている。
家電量販店（管理本部）	お客様の様子	・今までに無かった商品については売上好調であるが、既存商品への興味や引き合いが弱い。
乗用車販売店（経営者）	単価の動き	・受注はそれなりに取れているが、安い軽自動車为中心であり、景気が良くなったとは受け取れない。

	乗用車販売店 (役員)	販売量の動き	・ 県下の新車登録も2割増しで推移し、また、社内の受注も計画比2割増しで進行している。新型車の影響も大きいと思うが、円安や株高などアベノミクスといわれる先行きの景況感が期待されているので、引き続き消費にもより良く影響しているものと思っている。
	自動車備品販売店 (従業員)	来客数の動き	・ 春需要が前月に前倒しとなりタイヤ購入客が減少したが、全体の来客数は前年同月から大きく減少しており、まだまだ厳しい市場環境である。
	住関連専門店 (店長)	来客数の動き	・ 消費税率引上げでの新築の客は確かに増えているが、金額的な予算が無い方が多いようである。「家は無理して建てたが、中の物まではまだ買えない」という方が多い。かなり無理をして新築をしているようである。それが景気回復とは思えない。
	その他専門店 [酒] (経営者)	来客数の動き	・ アベノミクスの影響で円安や株高になっており、ニュースでは景気が良くなったといっているが、円安により輸入物が高くなっていることなどにより、当地や当業種が良くなってくるのは1年は掛かるだろうと思っている。
	その他専門店 [医薬品] (総務担当)	来客数の動き	・ 気温が低いと、制汗剤などの夏物商材の動きが鈍いが、カイロの需要が多い。また、健康食品、ダイエット関連食品の落ち込みが大きい。花粉症関連のマスクの動きはいい。
	高級レストラン (スタッフ)	販売量の動き	・ 例年よりも桜の開花が早く、散るのも早かったことに加え、週末は雨により稼ぎ時を逃したが、年明けからの個人利用は好調を継続している。ただし、法人利用の低下は一向に変わらない。
	スナック (経営者)	来客数の動き	・ 客同士の会話では、「株で儲けた」や「実態は変わらないが世間の空気が良い雰囲気になってきている」と耳にするが、ブティックや美容院経営者は当店ともども決して良くはないと語っている。
	観光型旅館 (経営者)	来客数の動き	・ インターネットを中心に個人の予約は入るが、休前日や特定の日に集中しており、延べ人数では前年並みか前年を下回っている。
	タクシー運転手	販売量の動き	・ 寒い日が続く、花見を始めいろいろなイベントに人があまり出なかった。
	通信会社 (役員)	販売量の動き	・ 4月は入学や異動などによる転居の多い月であり、それに伴うインターネットの新規契約獲得の伸びる月であるが、増加率はほぼ前年同月並みであり、大きな変化は無い。
	テーマパーク (職員)	来客数の動き	・ 円安の影響が分からないが、海外からのインバウンドの客は前年同月比で2倍以上の伸びを示している。一方、国内の一般団体や個人客の動きは前年同月の80%ぐらいで、トータルとしては前年同月よりややいい状況にはあるが、状況としてはどちらもともいえない状況である。
やや悪くなっている	スーパー (統括)	お客様の様子	・ ここ最近、異業種との客の争奪戦になっている状況にある。ここにきて、大手のドラッグストアが日配品以外の食品も扱うようになってきたなかで、ちょっとした買物については、客がドラッグストアもしくはコンビニエンスストアに簡単に買いに行けることより、スーパーとしては来客数的には厳しい状況となっている。
	衣料品専門店 (総括)	お客様の様子	・ 景気の影響だけではないかもしれないが、来客数が圧倒的に少ない。
	競輪場 (職員)	販売量の動き	・ 3か月前と比較し、1日当たりの売上平均が15%落ちている。
	美容室 (経営者)	来客数の動き	・ 今月は半年ぶりに、売上、来客数ともに前年を大きく割り込んでいる。消費者の来店サイクルの変化によるものかどうかまだ分からない。
悪くなっている	通信会社 (営業担当)	販売量の動き	・ 来客数は多いが、販売につながらない。原因としては、例年の新商品発表時期が近づいているための買い控え、また3月末までに、学生向け割引と併用してその家族も安くなるキャンペーンを実施しており、既に購入している客が多いと思われる。
企業動向 関連 (北陸)	良く なっている やや良く なっている	—	—
	繊維工業 (経営者)	受注量や販売量の動き	・ 全般的には円安によるコストアップに加え、受注面では期待感はあるものの今のところ力強さがみえない。しかし、輸出関連では引き合いも増え、一部受注増にもつながっている。

	繊維工業（経営者）	それ以外	・特に大きな動きは無いが、輸出価格の見積の引き合いが増えている。
	化学工業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・受注量が増えてきている。
	金融業（融資担当）	取引先の様子	・為替相場が円高基調から円安基調にやや回復し、日経平均も上昇基調にある。こういった景況感から景気についてはやや良くなっていると感じている。
	不動産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・同業者の皆さんの情報を聞くと、少しずつ動きが出てきている。
	税理士（所長）	取引先の様子	・客の方で、小売業関係が久々であるが来客数が増えてきており、割と価格の高い様々な電化製品関係や車関係も動きが活発になってきているようであり、消費の方が徐々に回復していることが実感できる。また、建設業関係は工事が結構入っており、製造業関係も輸出産業を中心とした下請業者の方がかなり業績が伸びてきている感じを客の様子をみてしていると分かる。
変わらない	食料品製造業（役員）	受注価格や販売価格の動き	・平均販売単価は前年同月比若干下がっているが、販売量が上向いており、全体的には前年同月水準で変化は無いという状況である。
	プラスチック製品製造業（企画担当）	受注量や販売量の動き	・周りの客の声からすると、少し物が動き出したという声は聞かれるが、当社の受注量がほとんど変わらない状況が続いている。
	一般機械器具製造業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・国内、海外も受注額が前年同月比で同じ状況である。
	精密機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・国内は比較的好調であるが、海外販売は円安の効果が具体的になるにはまだ時間が掛かることと、海外市況の厳しい状況は変わらずということより、全体では同じような状況がまだ続いている。
	建設業（総務担当）	受注価格や販売価格の動き	・見積入札価格は適正価格の業者が増えてきているが、一部に依然として低価格で見積入札する業者があり、厳しい価格競争が続いている。
	輸送業（配車担当）	取引先の様子	・景気が上向きといわれているが、物流としての一般消費の製品については動きは良くなっているとは思えられず、物量も顕著に増加しているとは思えない。
	輸送業（配車担当）	受注量や販売量の動き	・現在のところ、以前と比較しても特に変わりがない。
	通信業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・光回線は他社からの巻き返しにより純減と影響が大きいですが、通信に掛ける設備投資などはやや微増となっている。
	金融業（融資担当）	取引先の様子	・地場生産業者の生産状況については、特に残業するほどの受注量が無い模様であるが、リーマンショックのような頃のひどく落ち込んだ状態でもなく、まずイーブンベースといったところである。一方個人消費は、アベノミクスで株価が高くなったとか様々な心情的なプラス要因はあるが、特に耐久消費財についてはまだ上ぶれ材料が見当たらず、衣食住の基本消費財についても同様なことがいえ、まだプラスに判断するには時期尚早と考えられる。
	司法書士	取引先の様子	・個人住宅の新築、マンションの購入は堅調ではあるが、幾分落ち着いた感があり、その他の登記案件が非常に少なかった。
やや悪くなっている	建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・1～3月期は年度末工期の工事の完成に向けて休日出勤で対応した。4月はアベノミクスの財政出動に期待したが、実際の発注量は年度始めということもあり、前年同月と変わらず低調であり、前倒しで3月に発注され受注した工事でも設計が確定しておらず着工できず、結局のところ暇な4月であった。
	新聞販売店〔広告〕（従業員）	受注価格や販売価格の動き	・消費力が落ちているためか、あらゆる業種の広告チラシが投稿を抑えている感がある。チラシサイズのダウンが目立ち始めてきて、4月の売上は前年同月比5%以上減収した。
悪くなっている	—	—	—
雇用関連	—	—	—
(北陸)	良くなっている	—	—
	やや良くなっている	人材派遣会社（社員）	求人数の動き
	求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・1回の発行につき、前年同月と比較して平均で100件程度掲載件数が多い。

	新聞社〔求人広告〕（担当者）	求人数の動き	・求人数は思ったよりも伸びていない感じがあるが、3か月前に比べるとやや増えているという印象がある。
変わらない	人材派遣会社（役員）	求人数の動き	・世の中、円安や株価上昇での景気回復の兆しはみられるが、北陸地域ではもう少し掛かりそうある。人材不足ということが身に浸みて感じてこない。状況は従前と変わらない。
	職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数は宿泊や飲食サービス業、サービス業で増加したものの、製造業や卸小売業では減少しており、全体では前年同月比2.1%の増加となった。
	職業安定所（職員）	求人数の動き	・一部の産業において求人数は増加しているが、製造業では減少しているなど、バラつきがある。
	民間職業紹介機関（経営者）	求人数の動き	・受注は上向きだが、集まりにくい職種や業務へ、更に細かな採用条件付き即戦力を希望する案件が多い。
	学校〔大学〕（就職担当）	求人数の動き	・求人件数は前年同月比で特に変化がみられない。
やや悪くなっている	新聞社〔求人広告〕（担当者）	求人数の動き	・4月の求人広告売上は、前年同月比9割前後である。
悪くなっている	—	—	—